

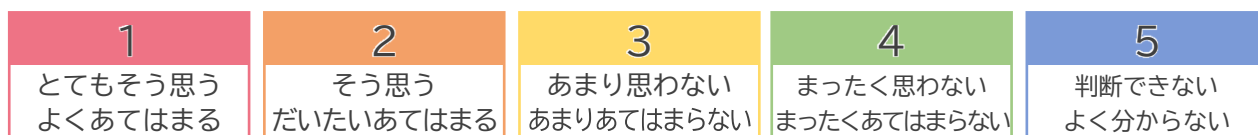
## 保護者アンケート報告

保護者の皆様には、“よりよい幼稚園づくり”のためのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。ご提出いただきましたアンケートをまとめましたので、ご報告いたします。（保護者アンケート結果については、麹町幼稚園ホームページにも掲載いたします。）

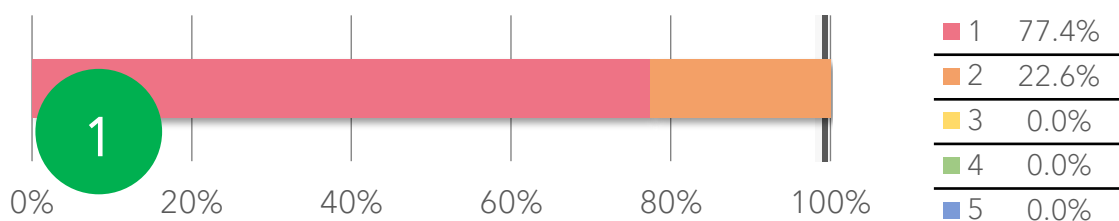
皆様から承ったアンケート集計のデータから読み取れることを参考にさせていただき、今後の教育内容の充実・改善を図ってまいります。

なお、令和8年度の教育課程（「年間行事予定」を含む）については、次年度 4 月の保護者会においてお話しいたします。

【園児数67 人（12月25日現在）中 回答数64人】



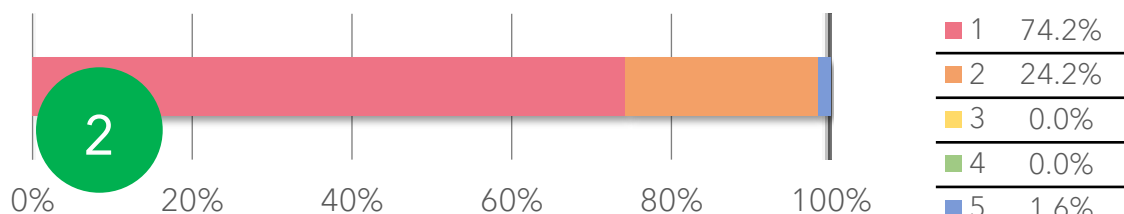
Q1 子どもたちは、様々なことに興味をもち、自分で考えて取り組んだり、挑戦したりしながら遊ぶことを楽しんでいると思いますか。



1 月の園だよりでもお伝えしましたように、充実した遊びの中に豊かな学びが生まれると考え、試行錯誤や友達との関わりを楽しみながら、探究が生まれるような環境づくりに努めています。

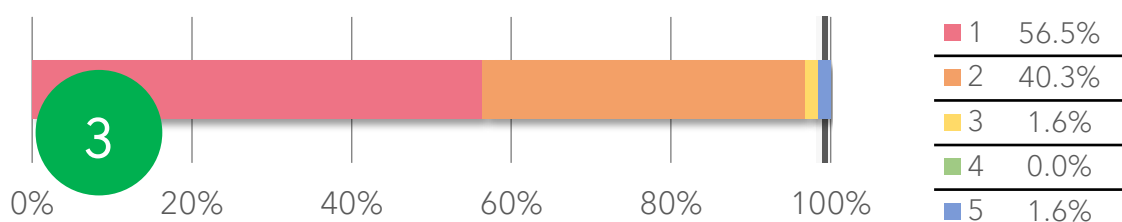
主体的な取組につながるよう、引き続き発達や時期に応じた環境を整えてまいります。

Q2 子どもたちは、先生や友達と関わって遊ぶ中で、コミュニケーション能力の基礎が育まれていると思いますか。



幼稚園では、他者と関わる経験を多様に重ねられるよう、計画的に環境をつくっています。自分で選ぶ遊びの中では気の合う友達と安心して互いの思いを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わい、学級で行う活動では同じ目的に向けて気持ちや力を合わせて取り組むことを経験します。異年齢との触れ合いや他施設との交流では、相手の立場や自分の役割への意識も高まります。他者との関わりでは思い通りにならない葛藤の中、折り合いをつけながら自己調整力を要する場面にも多く出会います。引き続き、身近ないろいろな人と関わる機会を大切に、共に暮らす喜びを味わえる生活をつくってまいります。

Q3 子どもたちは、健康や園生活に必要な習慣を身に付けながら、安心して生活を進めていると思いますか。



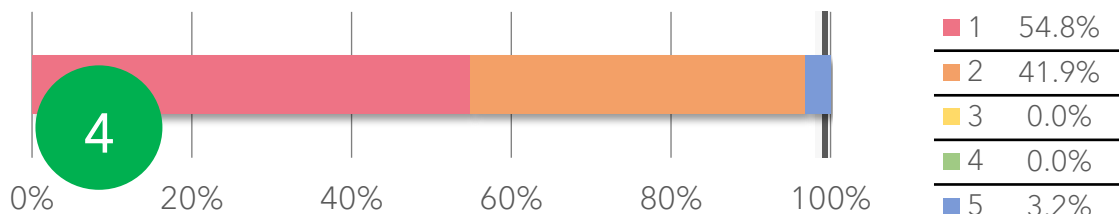
手洗いや衣服の調節、排泄など生活習慣に係る指導は、日々の生活の中で丁寧に関わりながら、清潔や身の回りの始末など自分のこととして意識を高められるようにしています。

食育においても、楽しい雰囲気の中で食べる喜びを感じながら食材への関心や規則正しい食事の大切さがわかるようにしています。

集団生活の中では、自分のタイミングだけではなく全体の生活の流れを意識し、集まる前にはトイレを済ませるなど、必要な習慣も身に付けていきます。

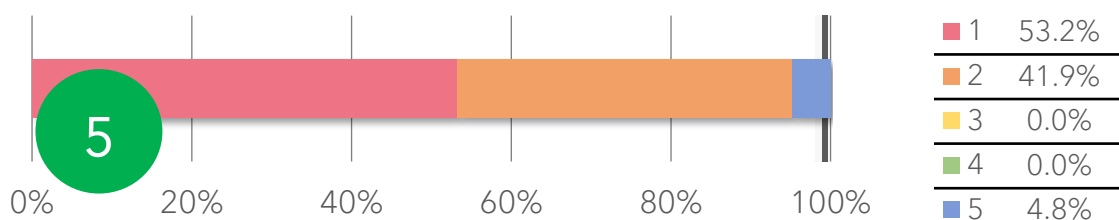
このような習慣は、決まりとして教え込むのではなく友達や教師との関わりの中で意味や必要感を感じながら身に付くようにし、健康な体づくりの基盤となるようにしています。

Q4 幼稚園は、子どもの理解に努めながら個に応じた指導をしていると思いますか。



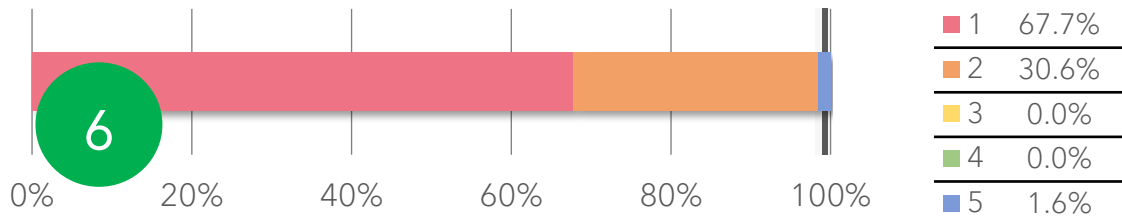
子ども一人一人の発達の姿、興味・関心、生活背景やその時々のおいを、日々の遊びや生活の中で丁寧に捉えながら保育をすすめることを大切にしています。教師は、観察や対話を通して子どもの内面を理解し、その理解に基づいて環境を構成します。同じ遊びに取り組んでいても、一人一人に応じて関わり方や援助の方法を工夫し、子どもが自らやってみようとする気持ちを支えます。今後も、このような積み重ねを通して、安心して自己を発揮し、それぞれの育ちを豊かに育てていけるよう努めてまいります。

Q5 子どもの様子や教育内容等を、職員間で情報共有しながら連携して保育を実践していると思いますか。



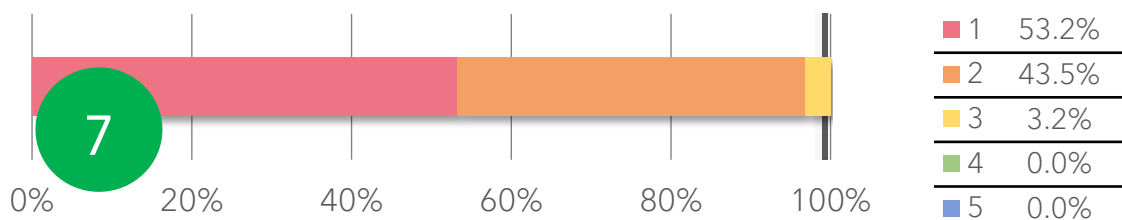
幼稚園における教職員間の情報共有と連携した保育実践は、子ども一人一人の育ちを継続的かつ丁寧に支えるために欠かすことができないものです。日々の打ち合わせや記録を通して、また日常の会話の中で、子どもの姿や変化、気付きや課題などを共有し、共通理解を深めています。その上で、学級や立場を超えて連携し、環境構成や援助の在り方を柔軟に調整することで、園全体として一貫性のある保育の実現を目指しています。こうした協働的な実践は、子どもに安心感をもたらすとともに、教職員の専門性の向上にもつながると考えています。

**Q6** 麴町幼稚園では、「感じ・考え、豊かな経験が生まれる環境構成や援助」をテーマに、園内研究に取り組んでいます。子どもたちは、「やってみたい」「こうしてみよう」と繰り返し試行錯誤しながら幼稚園生活を楽しんでいると思いますか。



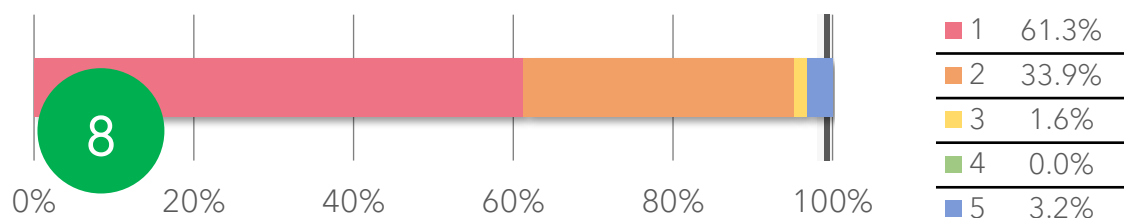
1 月の園だよりでもご紹介したとおり、本園では今年度、「感じ・考え、豊かな経験が生まれる環境構成や援助」をテーマに、幼児の遊びの中に生まれる探究の経験からの学びに焦点を当て、研究に取り組んでいます。教育の中で特に力を入れる焦点を明確に絞ることで、遊びへの意識的なアプローチにつながり、幼児一人一人の成長の姿として表れてくることが実感できます。

**Q7** 運動遊びや戸外での遊び、プール指導などを通して、体を動かして楽しむ経験を重ねていると思いますか。



跳ぶ・登る・投げる・支えるといった基本的な身体の動きを十分に経験することで体力や運動能力の基礎が培われます。主体的に楽しく取組み、繰り返し遊ぶ中で、バランス感覚や調整力、持久力などが自然に身についていくようにしていきたいと考えています。引き続き、体を動かすことや運動遊びに、抵抗感や苦手意識をもつことなく、思わず、「やってみたい」「おもしろそう」と体が自然に動くような環境を工夫していきます。

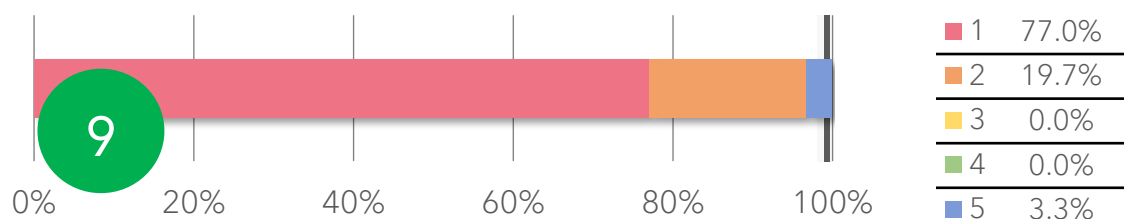
**Q8** 小学校との交流活動は、小学校への親しみの気持ちや就学への期待を育んでいると思いますか。（運動会練習の見学等も含みます）



本園では、幼児が小学校や小学生を身近なあこがれの存在として感じられることを大切にしています。「やさしくしてもらった」「一緒にできて楽しかった」といった温かな経験が心に残るよう工夫しています。交流の前には小学校と丁寧に打ち合わせを行い、幼児の実態を具体的に共有しながら一人一人が安心して参加できるよう工夫しています。

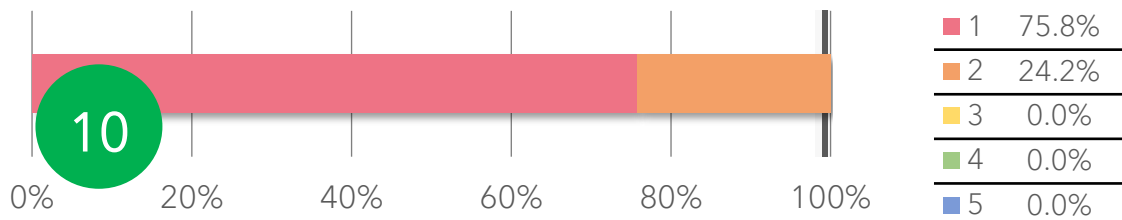
また、交流は「行って終わり」にはせず、園に戻ってから振り返りを行い、感じたことを言葉にしたり、遊びの中に取り入れたりしています。こうした積み重ねを通して、子どもたちの中に「小学校って楽しそう」「早く行ってみたい」という前向きな気持ちが育っていくことを大切にしています。

**Q9** お茶会やこどもの日・七夕・十五夜・雅楽公演などの伝統行事や季節を味わう活動は、自国の文化に親しんだり関心をもったりする経験になっていると思いますか。



幼稚園における七夕や豆まきなどの季節の行事、また日本の伝統文化に親しむ経験は、自然の移り変わりや暮らしとのつながりを、幼児が実感をもって理解する機会となり、幼児の心や社会性、感性を豊かに育てるうえで大切な役割を果たします。こうした行事を通して、昔から受け継がれてきた日本の文化や人々の願いに触れることで、自分たちの暮らしが歴史や文化の積み重ねの中にあることを、幼児なりに感じ取っていかれるようにしています。季節の行事や日本の伝統文化に親しむことは、幼児が自然や人とのつながりを感じ、自分の生活や心を豊かに広げていく大切な学びの機会となります。

**Q10 園庭の環境活用、栽培、飼育など自然や生き物に親しむことを通して、命の大切さや自然の恵みに気付くなど、豊かな心を育んでいると思いますか。**

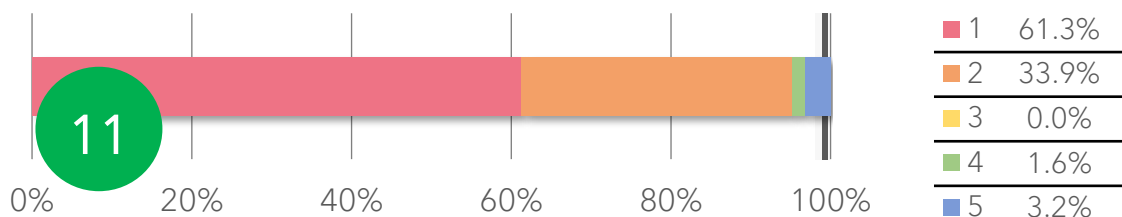


幼稚園において、栽培活動や飼育など生き物に親しむ環境を整えることは、幼児が命の大切さや自然の恵みに気付く、豊かな心を育む重要な経験です。

草花や野菜を育てたり、小さな生き物を飼育したりすることを通して、幼児は生き物が成長する様子や変化に気づき、世話をする中で愛着や思いやりの気持ちをもつようになります。水やりや餌やりを続けても、すぐに結果が出ないことや、思い通りにいかない場面に出会うことで、生き物にはそれぞれの命やペースがあることを実感していきます。

教師は、子どもの気付きやつぶやきを受け止め、問い返したり共に考えたりしながら、生き物との関わりが深まるよう援助しています。

**Q11 毎月の避難訓練や安全指導を通して、子どもが安全への意識を高めていると思いますか。**

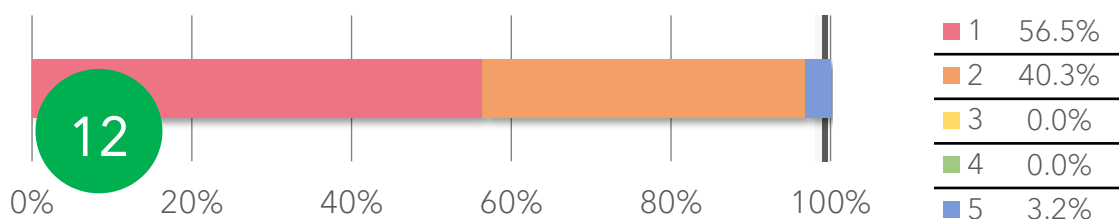


避難訓練や安全指導は、自分や共に生活する人の安全や命を守る力を育てるとともに、日常生活の中で安全に行動しようとする意識を培うことを目的としています。

避難訓練は、災害時の行動を一方的に覚えさせるものではなく、幼児の発達段階に応じて「なぜ必要なのか」「どうすると自分の命を守れるのか」を、分かりやすい言葉や体験を通して伝えます。繰り返し行う中で、教師の指示を聞いて落ち着いて行動する経験を積み重ね、非常時にも慌てずに動こうとする力を育てています。

遊具の使い方や園内外での過ごし方、交通安全や防犯などについて、実際の生活場面と結び付けながら伝えることで、幼児は安全に対する意識を身近なものとして理解していきます。

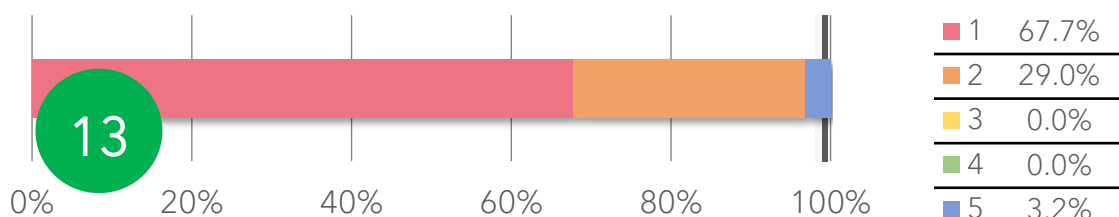
**Q12** 配布物や降園時の連絡、登園時の動画再生、面談、ポートフォリオの掲示等から情報を得たり、わからないことは幼稚園に相談したりすることを通して、園の教育への関心や理解が深まっていますか。



幼稚園では、保護者の方に子どもの育ちへの理解を多面的に深めていただけるよう、様々な方法で園生活の様子や教育内容をお伝えしています。配布物や HP、ポートフォリオ、園公開、懇談会、対面でのやり取りなど多様なかたちでお伝えし、園での生活や遊びの過程、子どもの思いや成長の姿を、より具体的にご家庭へ伝える工夫をしています。

情報共有を通して園とご家庭が協働し、子どもたちの健やかな育ちを支えてまいりたいと思います。引き続き、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

**Q13** 親子で園生活に期待をもったり、楽しんだりしていますか。

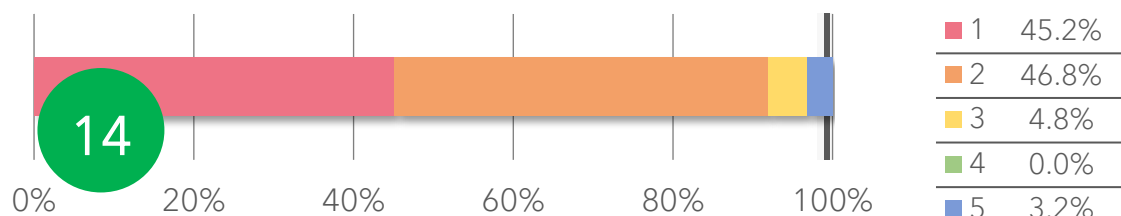


今年度も、園で経験した遊びを家庭でも話題にしたり、持ち帰って見せたりして終わり、ではなく、愛着のある制作物は継続して持参したり、時にはそれがさらに進化した形になったりする様子に度々出会いました。落ち葉集めをしている学年があれば他学年の幼児から公園などで見つけたものが届くこともあり、そこに保護者の方も関心を寄せられていることを感じました。

このような、園生活と家庭の連動は、園での遊びや経験が家庭生活につながり、家庭での気づきや体験が再び園での遊びに生かされることで、子どもの興味・関心や探究が連続的に育まれます。園と家庭という異なる場を行き来する中で、子どもの生活や育ちを切れ目なく支えることで幼児の学びがより豊かなものになっていくと思います。



Q14 家庭からの連絡や相談、ご意見に適切に対応する、地域との関わり（特養老人ホーム訪問、地域のお店）など、保護者の方や地域と共に教育内容を充実していこうとする幼稚園の姿勢を感じますか。

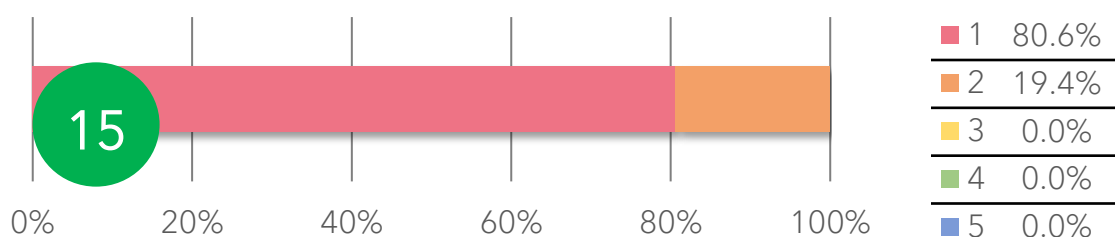


保護者の皆様が小さなことでも安心して率直な相談や建設的なご意見を届けていただけるよう、相談しやすい雰囲気づくりに努め、真摯に耳を傾け、信頼関係を築いてまいりたいと思います。

相談内容や課題は職員間で共有し、園全体として一貫した対応となる体制を整え組織としての対応力を高めていきたいと考えます。

引き続き、ご家庭や地域の皆様と協働した園運営を目指し、幼稚園教育の質を高め、子どもたちの健やかな成長を共に支えてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

Q15 今年度より、新たに朝夕及び長期休業中の預かり保育と、弁当給食が開始されました。預かり保育や弁当給食の実施は、子育ての支援になっていますか。



子育て支援事業は、「利便性」だけでなく「安心感」や「教育的な質」を重視し、幼児の心身が健やかに育つ環境になっているかを常に振り返りながら内容や環境を工夫しています。預かり保育は単なる時間の延長ではなく、幼児が落ち着いて過ごし、遊びや生活の連続性が保たれる場であることが大切です。担任や預かり保育担当職員、園全体で子どもの様子を共有し、一人一人の生活リズムや気持ちに寄り添い、安心につなげています。

まだ、実績が少ない事業であり、区内の他の区立園と連携しながら、実践方法や教育内容の研修にも取り組んでいます。